

学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自己有用感、挨拶、マナー、コミュニケーション能力、職業観等の向上（学校教育自己診断） ・ボランティア活動に対する意識の向上 ・中途退学率の減少、不登校生徒の減少、進級卒業率の向上
計画名	地域連携による復興支援プロジェクト

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 生徒理解の促進と自己有用感を高める取組みの強化</p> <p>(2) 特別活動、生徒会活動、部活動等を通じて、生徒の自己有用感を醸成するとともに集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア 生徒会行事、生徒の自主活動、ボランティア活動や地域連携活動の継続、発展をめざす。</p> <p>※ 地域・企業等と連携した「ゆめ・チャレ」等の就労体験活動のさらなる発展充実、参画企業と動員生徒を毎年5%拡張</p>
事業目標	<p>本校生徒に自信を持たせ、コミュニケーション能力を身につけさせる。また、基本的な生活習慣を身につけさせ、進級・卒業率を上げることや、中途退学率を減らす必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統地場産業を学び、「ものづくり」を通じて地域に誇りを持ち、自分にも誇りを持つ。 ・ 地場産業を通して学校外で様々な職業体験をし、基本的な生活習慣を身につけ、コミュニケーション能力等をつける。 ・ ボランティア活動に積極的に参加し、他者から感謝されることにより自己有用感を持つ。 ・ 被災地支援により得た知識を活かし、地域の防災活動の拠点となり、自助・共助・公助の精神を養う。
整備した 設備・物品 (数量)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興支援用材料費（打ち刃物） ・ 復興支援記録用ビデオカメラ ・ バイオディーゼル発電機一式 ・ ドローン一式
取組みの 主担・実施者	<p>プロジェクトリーダー： 首席（進路指導主事兼任・学校設定教科「堺学」主担）</p> <p>復興プロジェクト企画・運営： 学校設定教科「堺学」担当教員</p> <p>地域（自治会・小中学校等）との連携推進： 進路指導部</p> <p>生徒に対する諸活動： 生徒会活動部</p> <p>廃油発電機・電気自動車作成・改良及びドローン担当： 機械系・電気系職員</p>
本年度の 取組内容	<p>前年度から取組みをはじめていた「東北支援プロジェクト」を「復興支援プロジェクト」に発展させ、支援の輪を広げ活動をおこなった。被災地との情報交換を密にし、一人でも多くの生徒をプロジェクトに参加させ、「線香」と「包丁」の寄贈を行った。また、廃油を使って発電する「バイオディーゼル発電機」（家庭や食堂等で処分に困っ</p>

	<p>ている油を使用して電気を作る)を製作して、台風による停電の復旧工事や地域の防災活動において役立てることができた。</p> <p>ドローンによる空撮を行い、地域の方々と避難経路を確認し、話し合った。活動をビデオカメラで記録し、それをもとに講演活動をおこなった。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 成果目標： 本校が参加する防災講演によって、地域住民や近隣小・中学生の防災に対する意識を高め、防災の知識を幅広く周知する。</p> <p>成果指標 参加者の約8割の地域住民や近隣小・中学生が「防災講演や防災教育は参考になった」と回答することをめざす。</p> <p>② 成果目標： 本校が参加する防災訓練において、生徒が製作したバイオディーゼル発電機や電気自動車を展示し、ドローンの飛行を実演する。これらを紹介することによって地域住民や近隣小・中学生にその活用法を深く理解してもらう。</p> <p>成果指標 参加者の約8割の地域住民や近隣小・中学生が、「本校が製作したバイオディーゼル発電機や電気自動車」、「ドローンの活用は役に立つ」と回答することをめざす。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 今年度は「復興支援プロジェクト」において充実した被災地訪問を行えた。各被災地で被災状況をビデオカメラに記録し、地域の防災訓練等で防災に関する講演を行った。被災地を支援する「包丁」や「線香」の製作数を増やすことができた。防災講演後のアンケートにおいて、「本校の防災講演や防災教育は参考になった」が82.4%となり評価指標を達成することができた。……………(○)</p> <p>② 「バイオディーゼル発電機」は、「防災訓練」や地域のイベントで特に評価が高く、「ドローン」・「電気自動車」とともに毎回かなりの人だかりができた。地域の防災訓練におけるアンケートで「本校が製作したバイオディーゼル発電機や電気自動車、ドローンの活用は役に立つ」という回答は91.8%で評価指標を大幅に上回った。……………(◎)</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>「復興支援プロジェクト」を継続する。東北をはじめとして、北海道胆振東部地震被災地、西日本豪雨被災地、九州北部豪雨及び熊本地震被災地などの訪問を引き続きおこない、支援活動を続ける。「バイオディーゼル発電機」は、地域の方々や被災地の方々が必要性を感じているので、次年度も製作を続けたいと考えている。</p> <p>「電気自動車」は、災害の際に地域の方々を避難所に先導できるような改良が必要である。</p> <p>「ドローン」に関しても、飛行時間を増やして、将来的に「避難経路マップ」を作製することを目標としたい。</p> <p>予算内で目標達成に向けて、学校と地域が一丸となって、「微力だけれども無力ではない」をスローガンに前進する所存である。</p>